

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道礼文高等学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
〒097-1111 北海道礼文郡礼文町大字船泊村字ヲチカフナイ 2 7
E-mail rebun-z0@hokkaido-c.ed.jp
Website http://www.rebun.hokkaido-c.ed.jp/
生徒数 男子 13 名 女子 13 名 合計 26 名
児童・生徒の年齢 16 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「ESD 理念」の実践に向けて、次の二つを目標としている。

- ・ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育む。
- ・ 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育む。

変化が激しく、予測の難しい未来を生き抜く人材を育成するため、ESD の理念のもと教育活動を実施している。

教科では 1 年生理科の学校設定科目「高山植物」を中心としている。

高山植物の具体的な内容は、環境学習、地域学習、生物多様性を柱に、①環境保全に係わる教育活動 ②生物多様性に係わる教育 ③高山植物での学びを生かしたボランティアガイド活動 ④将来の礼文町を予測し、持続可能な社会の形成について考察する。

以上の 4 点を中心として教育活動を行った。

① 環境保全に係わる教育活動

- ・ 学校行事で、地域のゴミ拾いや、校舎周辺の緑化を兼ねるクリーン・グリーン作戦という地域美化・緑化活動を行った。（写真 1, 2）
- ・ 礼文島の高山植物を守るため、外来種除去活動を行った。（写真 3, 4）

・レブンアツモリソウの保全対策について学び、今年度も細胞塊の植え継ぎ実験を行った。(写真5, 6)



写真1, 2 クリーングリーン作戦



写真3, 4 外来種の見分け方と除去活動



写真5, 6 レブンアツモリソウ細胞塊植え継ぎ体験の様子

② 生物多様性に係わる教育

- ・授業「高山植物」では礼文島に存在する固有種を知り、生物多様性の重要性を考え、種を守るための持続可能な環境保護を考えた。
- ・固有種がなぜ生まれたのかを地域の歴史とともに学び、生物多様性における環境変化の影響を考えた。
- ・外来種除去活動の際には在来種と外来種の違いを見分け、種による違いを見極めた。
- ・生物多様性条約についても学習し、世界規模での取り組みや現状を知ることによって生物多様性の重要性を感じさせた。

③授業「高山植物」での学びを生かしたボランティアガイド活動

- ・生徒が学習した礼文島の自然の大切さや特異性を観光客に伝えるボランティアガイドを行った。(写真7, 8)
- ・ガイド活動を通して、観光客が礼文に対してどのような印象を持っているのかを知り、郷土の特異性を感じさせた。
- ・他者に伝える活動を取り入れたことで学びを深めると同時にコミュニケーション能力や、他者と協力する態度を育成できた。



写真7, 8 ボランティアガイドの様子

④将来の礼文町を予測し持続可能な社会の形成を考察する

現在礼文町の産業は観光業と漁業を中心としている。

観光客の主な目当ては、礼文島の固有種であるレブンアツモリソウなどの高山植物と、ウニやホッケなどの海産物である。

基幹産業を支えているものが自然に由来するため、経済の発展には自然保護が欠かせない。自然保護と経済の両立を達成するために、持続可能な社会を形成するための考え方を学習した。

環境の変化による水生生物や植物への影響を学び、環境保護の必要性と人類の発展のために環境破壊が行われていることを知り、自然と人との関わり方を考えさせた。

礼文町観光客の入込数のデータから島へのニーズを考えさせ、観光地としてどのような対応が必要かを考察させた。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<p>●書籍 利尻・礼文自然観察ガイド 北海道山の花図鑑 利尻島・礼文島</p> <p>●ウェブサイト WWF ジャパン</p>
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動は全ての教科での教育活動で展開されており、活動を通して環境・経済・社会の統合的な関わりを考えさせている。特に1年生理科の高山植物では、気候変動、生物多様性、環境学習を中心に学習し、持続可能な社会の形成に必要な人材の育成につとめている。教科以外でも生徒会活動や学校行事に、地域美化活動や地域コミュニティ活動など、様々なボランティア活動を取り入れ、地域や自然と触れあい、支えられていることを実感させている。あらゆる課題に対して生徒が中心となり主体的に解決させている。ボランティア活動は全校生徒だけでなく全職員も協力し学校全体で行っているという意識を持たせている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

毎年、1学年と2学年の総合的な学習の時間で、ユネスコスクールとしての取り組みを振り返り、ESDの考え方を確認する時間を設定している。1学年の高山植物の授業の中で自然や環境について学習し、持続可能なための価値観や考え方を養い、2学年の総合学習で達成度を確認する。未来の社会を担う人材として進路目標を設定し実現するという意識を持たせている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校での活動は小中学校や地域と連携していることが多く、機会があれば外部に学校評価アンケートを実施している。アンケートの結果では、学校活動としては地域と関わっていると感じられているが、活動による生徒への効果は実感されていないことがある。活動目標を見直し、達成するために必要なことを考えていく。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

毎月発行する「礼高だより」やHPなどで学校活動を積極的に外部に発信している。

宗谷管内理科教育研究会で授業高山植物でのESD実践例を報告した。特色ある教育活動を外部に知ってもらうことで、活動内容に工夫が積み重ねられていると感じる。発信することで活動を振り返ることもでき、改善につなげている。

他校に発信することで参考にされることや、より良い方法を提案されることもあり、相互に良い効果があると感じる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

法人NPO礼文島自然情報センターに礼文島の自然についての講師を依頼している。

年間10回ほどの高山植物野外実習に講師として同行してもらい、動植物の観察や、環境保護について指導してもらった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在当校はユネスコスクールとの交流はない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

生徒は高山植物の授業を通して、地球上の様々な問題によって多くの生物に危機が及んでいることを知り、現状を変えていかなければならないと感じている。また、学んだことをもとに環境保護活動に取り組んでいきたいという意欲も芽生えた。身近に見られる高山植物は、特異的な環境条件によって存在できていることを学習し、生物多様性の大切さを意識できるようになった。

教員は、知識の伝達に留まらず、教育の意義と必要性を定めて、生徒の将来を見据えた教育を意識できるようになった。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

授業「高山植物」の内容

1 高山植物について

- ・植物の分類
- ・生物多様性について
- ・国立公園での野外観察実習

2 礼文島の自然環境について

- ・礼文島の成り立ち
- ・礼文島の地形
- ・国立公園としての礼文島

3 自然保護活動の実施

- ・外来種除去活動
- ・絶滅危惧種「レブンアツモリソウ」の植え継ぎ実習

4 自然保護と自然利用の在り方を考える

- ・ボランティアガイド活動
- ・持続可能性についての学習

特別活動

生徒会活動(地域イベントの各種ボランティア活動)

学校行事

- 1 環境保全活動(クリーングリーン作戦)
- 2 海外交流事業(短期留学、国際理解)